

平成 21年 3月 31日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006-2008

課題番号：18500762

研究課題名（和文） 制度化されない生命倫理思想の歴史的研究

研究課題名（英文） Historical Studies on Unidentified Bioethical Ideas

研究代表者

林 真理 (HAYASHI MAKOTO)

工学院大学・工学部・教授

研究者番号 70293082

研究成果の概要：

生命倫理学が進展する一方、それに対する歴史的反省の試みも始まっている。本研究はかつて生命倫理学なるものがまだ形をなしていなかった時代の言説を振り返って、その中から忘れ去られたもの、失われたものを拾い上げることを目的とした。その結果、生命の手段化・資源化・商品化批判を軸にした生命倫理思想を見いだした。そして、それらをもとにしつつ、生命の偶然性、固有性、有限性、関係性を基礎とした新しい生命倫理のあり方が可能であることを示した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	200,000	0	200,000
2007年度	200,000	60,000	260,000
2008年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	600,000	120,000	720,000

研究分野：

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：生命倫理、倫理学

1. 研究開始当初の背景

生命倫理学は新しい学問だと言われている。たしかに、それは人体実験問題に端を発し、先端生命科学技術の発達に対応して展開してきた。そして実際に、日々新たな問題が提起され、新たな応用が模索されている。しかし、既にその登場からある程度の年月が経過し、その発展を歴史的に検討すべき時代に入ったとも言える。

そのようにして、歴史的探究は始まっているのではあるが、その中でこれまで必ずしも十分に取り上げられてこなかった生命倫理

思想があると考えて、本研究はそれを明らかにし、そこに新しい生命倫理の可能性を探ろうとして研究を企画した。

2. 研究の目的

研究の目的は、現在の生命倫理思想が積み残してきたものを見いだすことである。そのため、生命倫理学の草創期とも言える 1970年代に議論された、いくつかの問題に着目し、そこで提起された問題のうち、何がその後伝えられ、何が伝えられていないかを読み解いていくことにした。

3. 研究の方法

1970年代までに日本国内で行われてきた、生命の倫理に関わる具体的な問題をめぐる論争について、文献資料および関係者へのインタビューを通じて調査を行い、その論争を再構成することを試みた。具体的には、1970年代までの安楽死・尊厳死をめぐる言説、羊水検査をめぐる言説、組換えDNA実験をめぐる言説に着目して、生命倫理思想のうち実際に制度という形を見ることがなかった部分を明らかにすることを試みた。

そういった中から、80年代以降のいわゆるバイオエシックスの台頭によって逆に見えなくなっていた日本固有の生命倫理思想の存在に着目して、それらの現代的意義を検討していった。

4. 研究成果

まず、文献整理に基づいて、論争の背景を構成する様々な文脈を読み解くことができた。とりわけ、現代の尊厳死論争へとつながる安楽死問題については、法制化の是非を主とした形式的、手続き的論争に陥る以前の段階の論争を再構成し、安楽死に関してどのような考え方が存在したのかをまとめた。また、社会の高齢化、封建的家族制度の崩壊、自由主義・個人主義の考え方、専門家としての医師の立場等を知ることができた。

さらに、そういった歴史的な整理を踏まえて、そこで見いだされる生命尊重の思想について、いくつかのキーワードに注目して整理する作業を行った。注目すべき考え方として、生命の偶然性、固有性、有限性、関係性をとりあげた。現在は、これらの概念を整理し、その内容を分析しつつある。たとえば、偶然性の概念は、自然の制御不可能性や生命の神秘、出会いにおける驚きといった概念とリンクしている。そのことを考慮に入れて、人工授精、体外受精などの補助生殖医療技術をどのように捉えることができるか、あるいは出生前診断、受精卵診断の技術をどのように捉えることができるかという論点に進みつつある。

このように生命論の観点から、生命倫理の基礎付けについて新たな提案をすることを新しい一つの目標と位置づけることになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

林真理「駆け巡る細胞たち」『現代思想』(青土社発行)36巻8号(2008年7月)pp.213-229

[学会発表] (計3件)

林真理「遺伝子概念の公衆理解:欠如モデル再考」(科学技術社会論学会2006年度年次研究大会)2006年11月11日

林真理「科学史における比較 日本における細胞概念の受容を例に」(国立民族学博物館研究会「人類学における比較研究の再構築に向かって」研究会)2007年3月9日

林真理「科学用語使用の文脈の違い:マスメディアと日常における「遺伝子」の事例」(日本感性工学会第9回大会)2007年8月1日

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

林 真理 (工学院大学・工学部・教授)
70293082

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし